

表10 特殊教育諸学校

52. 5. 1現在

盲学校	種別	幼稚園部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	児童生徒数
県立盲学校				4	16	3	20	8	53	15	89
盲学校郡山分校				1	3					1	3
盲学校会津分校				2	7					2	7
盲学校平分校				1	4					1	4
計				8	30	3	20	8	53	19	103

  

ろう学校	種別	幼稚園部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	児童生徒数
県立ろう学校		2	13	8	42	6	43	7	57	23	155
ろう学校福島分校		2	12	4	20					6	32
ろう学校会津分校		1	5	3	10					4	15
ろう学校平分校		2	8	4	23					6	31
計		7	38	19	95	6	43	7	57	39	233

  

精神薄弱養護学校	種別	幼稚園部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	児童生徒数
福島市立福島養護学校				10	52	5	27	5	27	20	106
喜多方市立喜多方養護学校				5	22	4	21			9	43
相馬市立養護学校				7	32	3	12			10	44
県立西郷養護学校				9	43	3	14			12	57
県立郡山養護安積分校				8	48	6	40			14	88
福大附属養護学校				3	19	3	13			6	32
計				42	216	24	127	5	27	71	370

  

肢体不自由養護学校	種別	幼稚園部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	児童生徒数
県立郡山養護学校				14	84	6	43	5	51	25	178
県立平養護学校				8	63	5	38			13	101
県立翠ヶ丘分室				2	12	1	9			3	21
計				24	159	12	90	5	51	41	300

  

病弱虚弱養護学校	種別	幼稚園部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	児童生徒数
県立須賀川養護学校				10	60	6	39			16	99
県立須賀川郡山分室				3	15	3	14			6	29
計				13	75	9	53			22	128

屋外運動場と学校敷地を合わせると約二万九千平方メートルである。高等部の中に設置されている職業学科の設備も年々充実しており、特に、五十年設置された金属工業科は、生徒の将来の進路に明るい見通しがでている。

聾分校は、福島市、会津若松市、いわき市にあり、それぞれ盲学校校舎と併置され、学部は、幼稚園部、小学部が設置されている。

校舎、寄宿舎、屋内運動場などについては、盲学校のところで記述したと

おりの実態である。

(3) 養護学校

本県では、障害種別に応じた必要な養護学校が設置されている。

○ 精神薄弱養護学校

対象児が最も多く、学校が少ない現状なので、養護学校義務制に対処するため、重点的に整備がはかられている。

県内には、市立、国立、県立合わせて六校(うち一校は分校)が設置されている。

県立西郷養護学校は、太陽の国の敷地内にあり、校舎は、鉄筋造で整備さ

れている。

屋内運動場は、週二回程度太陽の国の体育館を借用している。

県立郡山養護学校安積分校は、本校とは障害種別が異なっている養護学校である。

学部は、小学部、中学部が設置されている。

校舎は、社会福祉法人安積愛育園で建築したものを借用して、本年度開校した学校である。

今後じゅうぶんな整備をはかる必要がある。

来年度開校予定として、猪苗代町、富岡町に校舎の一部を建築中である。

○ 肢体不自由養護学校

県内の養護学校としては、最も早く設置された。

県立郡山養護学校は、同じ校舎に小学部、中学部、高等部が設置されている。

校舎、寄宿舎が鉄筋造で、屋内運動場は、鉄骨造である。

学校給食設備が整備され完全給食が実施されている。

県立郡山療育園(病院であり肢体不自由児の児童福祉施設でもある)が学校と渡り廊下で接続され整備されている。

年々就学する児童生徒数が増加してきており、現在の学校施設を見なおす必要がある。

県立平養護学校は、小学部、中学部が設置されている。

校舎、寄宿舎は、鉄筋造である。

屋内運動場は、現在建築中である。

本校の翠ヶ丘分室は、いわき市豊間にある国立翠ヶ丘療養所内(病院であり重症心身障害児の児童福祉施設でもある)に設置されているが、教室といったものは特になく、プレイルームを借用して学校教育を実施している。

○ 病弱養護学校

病弱養護学校の本校は、須賀川市にあり、小学部、中学部が設置されている。

寄宿舎はなく、隣接の国立療養所福島病院内に入院している児童生徒がほとんどである。

校舎は、鉄筋造で、屋内運動場は鉄骨造である。

屋内運動場は、昭和五十一年度に建設されたもので、病弱な児童生徒の回復訓練にも効果があげられている。

同病院の「わかさ病棟」は重症心身障害児の児童福祉施設でもある。その病棟内で、本校の学級の一部として学校教育が実施されている。

前記した翠ヶ丘分室と同様な現状にある。

県立須賀川養護学校郡山分室は、郡山市にあり、五十一年度に設置された。学部は、小学部と中学部がある。

国立郡山病院と同分室が渡り廊下で接続されている。

校舎は、木造で病院のものであるが教室に改造して借用している。

以上、学校ごとに施設の整備状況を述べたが、整備の状況から、今後義務制移行の関連において施設の整備をじゅうぶんはかる必要がある。